

発行所: 社会福祉法人愛篤福祉会  
 発行日: 令和3年12月28日  
 住所: 北海道夕張郡由仁町川端1002  
 電話: 0123-85-2246 FAX: 0123-85-2046  
 メール: kakas\_01@aitokufukushikai.jp

# かわばたの風

## You Raise Me Up

管理者 太田 さとみ

深々と雪降る中、自分の至らなさ無力を思い、唯々雪を眺めていました。時には挫けそうになり、時には人を嫌いになり、障害の我が子を見つめていました。神様は私にどうしろというのか、何が足りないというのか。私には答えが見つからない。ただこの子のために答えが欲しい。クリスマス街の騒ぎを他所に、壊れたレコードのように何度も何度も同じ音楽を聴いて辛さを忘れた。「You Raise Me up」もう1度元張ろう、奇跡の足音が聞こえるような気がする。いわきの事業所のクリスマス会でも、利用者発表会のBGMにこの曲が使われたと聞き胸が熱くなりました。



You Raise Me Up

## 1月の予定

- 11日 新年会
- 17日 避難訓練
- 25日 工賃会議



### 北海道の職員に感謝

理事長 遠藤 節子

北海道の職員から毎日リモートで報連相をもらっています。学校という大きな建物の維持管理の傍ら事業運営もしています。

来年の春には、由仁町川端地区にもようやく光回線が開通する見込みで、より快適な通信環境が出来上がります。

北海道は「寒い」「過疎の町」というリスクを抱えながらも東日本大震災での「いざはいざに非ず」を教訓に設置した法人独自の避難所としての機能を守るために5名の職員が働いています。

日本人を象徴する言葉に「喉元過ぎれば熱さを忘れる」があります。大震災から10年余が経過し、いわきでの生活の中ではあの天変地異さえも他人事のように感じる時さえあります。しかし、毎年のように起こる自然災害や新型コロナウイルスのまん延など、これからの世代の人たちの生活はどのようなものか、障がいを持って生まれた子供たちは誰が守ってくれるのかを考えた時、答えが見いだせません。

避難所として活用されないことが何よりですが、現状からするとそう遠くない将来に活用される日が来ると感じているのは私だけなのでしょうか。

しかしあの時は無かった、みんなが避難できる場所を持たないことが法人経営者としての1つの答えだと信じています。

## 風だより

3月6日「コロナに怯えた月日、自粛生活というワンパターンの日々でも、月日の経つのは早いと感じるものですね。あつという間とは、「戻ってこない過去」が潜在意識にあるから出る言葉か。所詮、時の流れとはこんなものかもしれません。1日を無駄にしないよう決断をできる人になりたいものです。



### <寄付・物品寄贈の皆様>

松村諭様 (株)アクティ建築設計様 商図計画様 (株)愛夢様 アシストジャパン(株)様 由仁町共同募金委員会様 (株)近藤商會様 協進商事(株)様 山本輝人様 川端郵便局様 (有)平尾商店様 菅野新聞店様 由仁町社会福祉協議会様 由仁町民生委員児童委員協議会様 (順不同) ありがとうございました。

# メリー クリスマス!!

